2017年(平成29年)3月17日(金曜日)　夕刊　讀賣新聞

薬投与 中止指示せず

福山の病院長 会長とともに辞任

医療法人「紘友会」が運営する福山友愛病院（広島県福山市）が昨年11～12月、統合失調症などの患者6人に、本来は必要のないパーキンソン病の治療薬「レキップ」を投与していた問題で、同病院は17日、記者会見し、大蔵雅夫病院長が、薬剤師から投与について疑問を指摘されたのに、投与中止を指示していなかったことを明らかにした。県は17日午後、精神保健福祉法に基づき、病院を立ち入り検査した。病院は、レキップの投与を指示していた医療法人の末丸紘三会長が今月11日付で、大蔵病院長が同13日付で辞任したことも明らかにした。

病院によると、患者6人にレキップが投与された後、薬剤師が末丸会長に対し、「使い方がおかしい」と指摘したが、末丸会長は取りあわなかったという。その後、この薬剤師は大蔵病院長にも疑問を伝えたが、病院長は看護師に対し、副作用に注意して経過観察するよう指示しただけで、投与を中止させなかったという。

病院が設置した調査委員会は、「使用期限の迫った薬の処分が投与の動機の一つ」と結論付けている。